通し番号	5014

分類番号	R01-9C-34-01

神奈川県における大磯以西の大型定置網の漁獲傾向と休漁措置の効果

［要約］
神奈川県における大磯以西の大型定置網の資源管理効果を算定するため、平成18～30年の13年間の各漁場の月別漁獲量から年間漁獲傾向を、各漁場の休漁月の１日当たりの平均漁獲量と休漁日数から休漁措置による漁獲削減効果を推定した。また、資源管理対象魚種であるクロマグロの漁獲傾向から同種の漁獲を削減するような効果的な休漁時期について考察した。
結果として、月別漁獲量から全漁場において盛漁期が10月であることが分かった。また、漁場ごとの休漁効果は年間漁獲量の1.3～13.5%となり大きなばらつきが見られた。クロマグロについては、月別１日当たりの漁獲量から８～11月に多く漁獲されていることがわかった。クロマグロの漁獲を削減するためには、８～11月に休漁時期を設定することが好ましいが、ある程度長期間の休漁をしなければ漁獲削減効果は低いと考えられた。クロマグロの漁獲抑制効果を高めるためには、入網しにくくする網の導入や逃がしやすい構造等の工夫を検討する必要があると考えられた。

神奈川県水産技術センター・相模湾試験場　　連絡先0465－23-8531

［背景・ねらい］

本県では平成23年度から資源管理・漁業所得補償対策事業が施行された。県内の定置網漁業者は所属する漁業協同組合が定めた資源管理計画に基づき連続７日間以上の休漁期間を設定しており、収入の安定と資源の保護に努めている。

本研究では、本県相模湾海域における大磯以西の大型定置網の資源管理効果を算定するために、平成18～30年の13年間の各漁場の日別漁獲量のデータから月別漁獲量を求めた。さらに各漁場の休漁月の１日当たりの平均漁獲量と休漁日数から、休漁措置による漁獲削減効果を推定した。一方、クロマグロの資源管理が強化される中で、定置網には同種の漁獲数量制限が課せられている。そのため、これら定置網のクロマグロの月別１日当たり漁獲量や年別日別漁獲量について調べ、クロマグロが多獲される時期を特定し、より効果的な休漁時期について考察した。

［成果の内容・特徴］

1　年別の漁獲量は全ての漁場において、10月が盛漁期、１～３月が閑散期であった（図１）。現在、ほとんどの漁場で休漁期間は閑散期である１～２月に設定されていた。
2　休漁期間月の１日当たりの漁獲量を休漁日数に乗じ、各漁場の削減効果を算定した。資源管理計画が立案されてから平成30年までの削減効果は年間平均で約３～36ｔ、削減率は1.3～13.5%と推測された。
3　クロマグロの月別１日当たりの漁獲量をみると、８～11月に多獲されていた（図２）。
4　クロマグロの日別漁獲量みると、日によって大きく変動する特徴がみられた。よってクロマグロは突発的に漁獲される傾向にあることが明らかになった（図３）。

［成果の活用面・留意点］

1　休漁効果を向上させるためには、閑散期である１～３月以外に休漁する方法が考えられる。
2　ただし、漁業経営、漁獲金額などのバランスも考えて休漁設定をする必要がある。
3　クロマグロの漁獲は８～11月に多いため、その時期に休漁することがクロマグロの漁

獲抑制に寄与すると考えられる。

4　ただし、クロマグロは突発的に漁獲される傾向があるため、休漁期間をこの8～11月に設定しても、ある程度長期間休漁しないとクロマグロの漁獲削減効果自体は低いと考えられた。

5　よって、クロマグロの漁獲抑制効果を高めるためには、クロマグロが入網しにくい網の導入や漁獲されたクロマグロを逃がしやすい工夫を検討する必要があると考えられた。

［具体的データ］

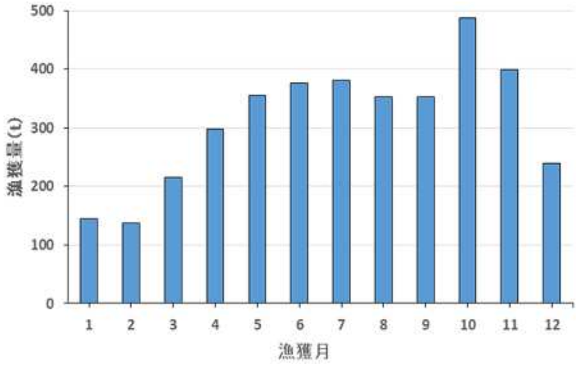

図１　平成18～30年における月別漁獲量の年平均

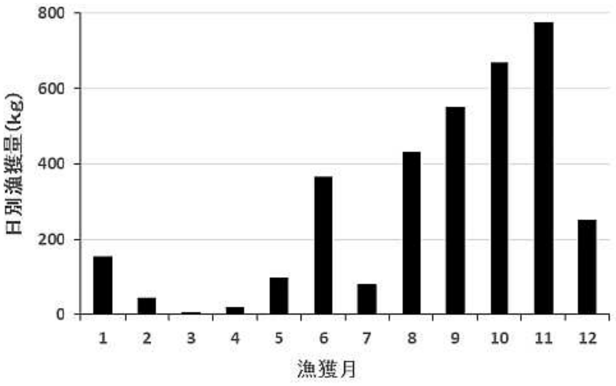

図２　クロマグロの平成18～30年における月別漁獲量の1日当たりの漁獲量

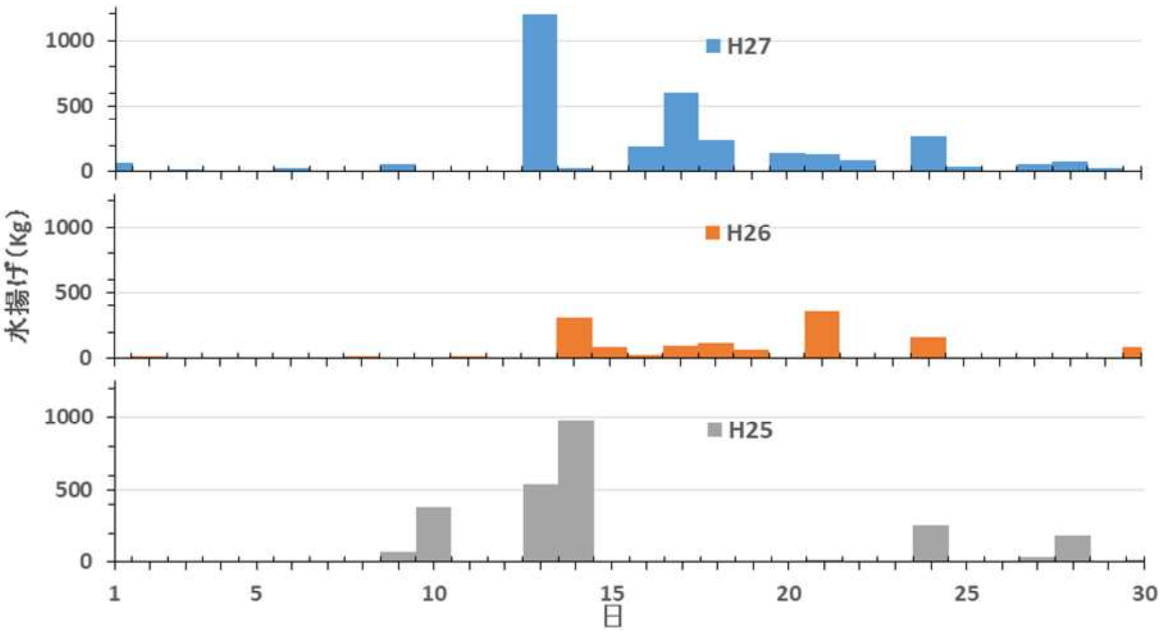

図３　平成25～27年の11月におけるクロマグロの1日当たりの漁獲推移

［資料名］令和元年資源管理計画等評価検討会資料（相模湾西湘南地域の漁獲傾向と休漁措置の検討）

［研究課題名］定置網資源有効利用研究

［研究期間］H28～R２年度

［研究者担当名］　奈須政和　有馬史織